

平成26年度

— 第 1 1 回（定例・臨時） —

## 教育委員会会議録

開 会	平成26年10月29日	午前 午後	2時30分			
閉 会	平成26年10月29日	午前 午後	3時50分			
会議場所	教育委員室					
委員出欠	花山院弘匡	出	佐藤 進	出	森本哲次	出
	藤井宣夫	出	高本恭子	出	吉田育弘	出
議事録署名	教 育 委 員 長					
委 員	教育委員長職務代理者					
書 記	奈良県教育委員会事務局 企画管理室					

議案及び議事内容	結果
<p>次 第</p> <p>議決事項 1 奈良県立高等学校入学者募集人員等について</p>	<p>可 決</p>
<p>○花山院委員長「ただ今から、平成26年度第11回定例教育委員会を開催いたします。本日は、委員全員出席で、定足数を充たし委員会は成立しておりますので、これより委員会を開催いたします。」</p>	
<p>○花山院委員長「まず、はじめに前回の定例教育委員会会議録の承認についてです。」</p> <p>「お手元に配付している会議録について、各委員内容をご確認ください。」</p> <p>「ご承認を頂けますでしょうか。」</p> <p>※ 各委員一致で承認</p>	<p>承 認</p>
<p>議決事項 1 奈良県立高等学校入学者募集人員等について</p>	
<p>○花山院委員長「それでは、議決事項 1 『奈良県立高等学校入学者募集人員等』について説明願います。」</p> <p>○教育長「平成27年度の県立高等学校の入学者募集人員等につきまして、全日制、定時制、通信制の各課程ごとに定めるものです。また、新たに南部・東部地域等の4校において全国募集を開始しようとするものです。詳細につきまして、学校教育課長よりご説明いたします。」</p> <p>○学校教育課長「最初に、全日制課程の募集人員についてです。平成27年3月の県内中学校卒業予定者数は学校基本調査によりますと、中学校3年生の在籍生徒数とほぼ同数の13,911人となり、昨年より173名少なくなる見込みです。高等学校への推定進学率はここ数年97%前半で推移しており、進学率が高止まりしているため、昨年度と同様に直近3年間の実質進学率の平均を推定進学率としました。平成24年度が97.3%、平成25年度が97.2%、平成26年度が96.9%でしたので、平成27年度を97.1%といたしました。卒業予定者数の13,911名に推定進学率97.1%を掛けて算出したのが、平成27年度高等学校進学者推定数です。人数は13,508人となり、昨年度と比べて140名減少しました。県内及び近隣府県の私学の募集定員数は昨年度と比べて大きな増減はございません。県立高等学校進学者数への影響は少ないと考えられますので、昨年度の県立高等学校全日制募集人員の割合62.0%を平成27年度高等学校進学者推定数に乗じた数を募集人員の目安としました。その人数は8,378人です。二階堂高等学校で普通科から総合学科であるキャリアデザイン科への学科改変に伴い、二階堂高等学校の募集学級数を7クラスから5クラスへと変更いたします。平成27年度の募集人員は、昨年度より2学級分80人減となり、8,378人212学級といたします。続いて、定時制課程の募集人員について、大和中央高等学校第Ⅲ部の募集人員を75名から35名に変更するので、平成27年度の募集人員は1学級40名の減となり、342人9学級といたします。市町村の分校60人と合わせると、合計402人11学級の募集となります。通信制課程は平成26年度と同数の150人を大和中央高等学校で募集します。</p> <p>続いて、平成27年度奈良県立高等学校入学者全国募集の実施要項についてです。趣旨は、奈良県南部東部振興対象地域内や中山間地域内に位置する高等学校において、各学校が指定する部活動を志望する県外生徒を対象に募集を行ってスポーツを通じた地域振興、学校や地域の特色化や</p>	

## 議 案 及 び 議 事 内 容

活性化に貢献できる人材育成を目的とするものです。応募資格については、次の(1)から(3)までのいずれかに該当する者で、各校が指定する部活動を3年間継続する意思がある者と定めました。

(1)中学校若しくはこれに準じる学校を卒業した者又は平成27年3月卒業見込みの者、(2)中等教育学校前期課程を修了した者又は平成27年3月卒業見込みの者(3)学校教育法施行規則第95条各号のいずれかに該当する者。(3)は、日本人学校等中学校に相当すると定められている学校のことを示しており、それを卒業している者ということです。これらが基本的な応募資格です。今回全国募集を実施する学校、学科、コース及び指定する部活動について、奈良県立山辺高等学校は生物科学科で馬術部又はライフル射撃部を志望する者、奈良県立御所実業高等学校は環境緑地科、機械工学科、電気工学科、都市工学科でラグビー部を志望する者、奈良県立榛生昇陽高等学校は普通科人間探求コースで自転車競技部を志望する者、奈良県立十津川高等学校は普通科工芸コースでボート部を志望する者となっております。各高等学校の募集人員の10%以下を全国からの募集人員と定めます。御所実業高等学校の機械工学科は全体の募集人員が74名となっておりますので、他の学科は3名までですがこのみ7名までとなっております。それぞれの学校、学科、コースで合格者数が募集人員を満たさず、欠員が出た場合は10%を超えても受け入れることができるとしております。基本的には特色選抜と同様に行います。出願は1校1学科に限りますが、御所実業高等学校については、順位をつけて2学科まで出願が可能です。2校以上に出願した者はそのいずれの高等学校にも出願しなかったものとして扱います。入学願書の取り下げはできません。全国募集に出願する者は事前に所定の手続きをしていただきます。高等学校、高等専門学校、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部に在籍している者は出願できません。調査書等の提出、検査、入学者の選抜、合格発表、その他についても特色選抜の実施要項に準じて行います。」

○花山院委員長「ただいまの件につきまして、ご意見、ご質問はございませんか。」

○教育長「募集人員の内10%以下を全国募集という言い方でいいのですか。例えば募集人員が37名の場合、県内からは34名、全国からは3名と分けて捉えるということですか。」

○学校教育課長「試験は同じものを受けます。合格者全員が県内からということもあり得ます。例えば、合格者37名の内、全国から来られた方が4名いた場合、3名までが10%以内ということになりますので、4人とも合格圏内であったとしても、1名が不合格となります。上限が3名とご理解下さい。」

○教育長「別々に枠を定めるのではなく、合格者の内、全国からは最大1割まで受け入れることができるという趣旨ですね。」

○花山院委員長「募集人員に満たない場合は、もっと受け入れるということですか。」

○教育長「そういうことですね。募集人員を満たしている場合、定員37名のところは県外の生徒は最大3名までです。」

○藤井委員「県立高校が県外から募集することに対して、日本私立中学高等学校連合会から何か意見はありませんか。鹿児島で全寮制の中等教育学校をつくるにあたって、すごく問題になっています。県立学校が県外生徒を入学させるということが広がることに私学は警戒心をもっていません。」

## 議案及び議事内容

- 教育長「島根や秋田の過疎地域も実施していますが、問題はないと聞いています。」
- 藤井委員「公立学校が私学化することをすごく警戒しています。」
- 花山院委員長「1次募集のときに定員割れとなり、2次募集になったときはどうなるのですか。再度受検できますか。」
- 教育長「2次募集は想定していません。特色選抜だけです。」
- 佐藤委員「県外の人が公立に入れば、県内の公立に入れたい人は私学に入学することになりますか。」
- 森本委員「奈良からの入学者が減るなどの問題は生じないのですか。」
- 花山院委員長「県内の生徒を圧迫するというのを見れば現実にはほとんど無いと思いますが、イメージとして、これで県内の生徒が公立に入れなかったらどうするのかという意見はあると思います。」
- 藤井委員「県内生徒と県外生徒の授業料は同じですか。私学は県内生徒と県外生徒で補助金の補助率が違います。」
- 教育長「授業料は同じです。」
- 花山院委員長「自宅から通学することを前提にしている学校や十津川のように寮などを前提としている学校もありますが、住民票は移さなくてもいいのですか。個人の自由ですが、住民票を移しても問題無い訳ですね。」
- 教育長「住民票を移して保護者と一緒に住むのであれば問題ありません。」
- 花山院委員長「ほとんどは寮やアパート等に住まれるということですね。」
- 教育長「自治体をお願いをして、県外生徒受入れ連絡会のようなものをつくっていただき、地域振興なので、3年間のホームステイなど温かく迎えていただければと思います。身元引受けもその連絡会で引き受けてもらえるような仕組みをつくっていきたいと思います。」
- 花山院委員長「地域振興というのはよいですね。」
- 藤井委員「地域振興と奈良県の活性化ということで他府県から人を呼ぶのは賛成です。」
- 教育長「全国募集実施要項の内容をもう少し検討します。」
- 高本委員「補助金はどれくらいあるのですか。」
- 松田次長「就学支援金等の制度をもう一度確認します。」

## 議案及び議事内容

○花山院委員長「ただいまの件について、原案どおり議決してよろしいか。」

○花山院委員長「議決事項1については可決いたします。」

### その他報告事項

○花山院委員長「この他に報告・連絡事項等はございませんか。」

○教育長「その他報告事項が3件ございます。松田次長から1件、教職員課長から1件、保健体育課長から1件を、続けてご報告いたします。」

#### 1 平成26年9月定例県議会の概要について

○松田次長「9月定例県議会は9月16日に開会し、10月6日に閉会いたしました。教育委員会関係では2議案が提出されました。9月12日に文教くらし委員会の事前委員会が、また、9月19日から9月25日までは代表・一般質問、9月26日から10月1日の間に予算審査特別委員会が行われました。10月4日から16日の間には決算審査特別委員会が行われました。

続いて、その概要についてです。教育委員会関係の提出議案についてご説明いたします。平成26年度奈良県一般会計補正予算についてです。最初に、『スーパー食育スクール事業』に関する補正予算です。これは、県内小学校1校をモデル校として、児童の食事内容や活動量等の調査分析による食育プログラムの効果検証等を行うものでございます。次に、『奈良県立学校いじめ問題調査委員会条例』についてです。県立学校の設置者である教育委員会が設ける『奈良県立学校いじめ問題調査委員会』について、その設置並びに組織及び運営に関し必要な事項を定めようとするものでございます。

続いて、本会議及び委員会での質問・答弁等の概要をご報告いたします。主要なもののみ説明させていただきます。まず、9月12日に開催されました文教くらし委員会です。日本共産党宮本委員から『小中学校の普通教室へのエアコンの設置について』、民主党の猪奥委員から『高校の中退と教育環境の整備との関係について』などの質問があり、教育長及び各課長より答弁いたしました。次に、本会議の代表質問と一般質問の概要です。自由民主党改革中村議員から『総合的な学習の時間の充実について』、民主党高柳議員から『スクールソーシャルワーカーの設置について』、『県立高等学校の普通教室への空調設備の設置について』、日本共産党太田議員から『特別史跡平城宮跡の保存について』、『公立小中学校の普通教室へのエアコンの設置について』、『食育の推進について』、なら元気クラブ川口議員から『南部・東部地域の振興への取り組みについて』ご質問いただいております。次世代の党大坪議員から『子供達の規範意識について』、自由民主党改革岩田議員から『歴史文化遺産の活用について』、自由民主党宮木議員から『小中学校における英語教育の充実について』、自由民主党改革秋本議員から『高等養護学校の分教室の設置について』、民主党森山議員から『キャリア教育について』、なら元気クラブ梶川議員から『奈良県の教育行政について』それぞれご質問いただきました。以上の質問に対しては、教育長または知事よりご答弁いただいております。次は予算審査特別委員会についてです。民主党高柳議員からは『県立高校への普通教室へのクーラー設置について』質問があり、教育長からご答弁いただきました。本件は総括審査にもあがり、知事から来年度予算要求に向けて検討する旨ご答弁いただいております。最後に、決算審査特別委員会についてです。自由民主党宮木議員ほか6名の議員から12項目の質問があり、それぞれ教育長及び各課長よりご答弁いただきました。議会閉会日に、文教くらし委員長報告、予算審査特別委員長報告が行われ、教育委員会の関連議案は可決により成立いたしました。』

#### 2 奈良県公立学校優秀教職員表彰について

○教職員課長「この表彰は、教職員の意欲の高揚と学校の活性化を図ることを目的として、職務に精励し、他の教職員の模範となる教育活動を実践している教職員及び教職員グループを表彰するものです。表彰候補者につきましては、まず、各学校の校長が推薦いたします。推薦を受けた

## 議 案 及 び 議 事 内 容

者について、奈良県公立学校優秀教職員表彰選考委員会で選考いただき、教育長が被表彰者を決定するという流れでございます。選考委員会は、大学教授の学識経験者2名、一般の企業関係者2名、主婦の方1名、PTA関係者2名の計7名の委員で構成されております。今年度については、13件の推薦がございました。内訳は小学校6件、中学校2件、県立学校5件です。選考の結果、11件を表彰することに決定いたしました。分野別では、学習指導2件、生徒指導2件、部活動2件、地域との協働1件、その他模範となることが4件でございます。校種別に見ますと、小学校5名、中学校1名、高等学校5名となっております。表彰式は、昨日挙行させていただき、本日の奈良新聞でも報道されております。優秀教職員の実践事例については、教育委員会のホームページに掲載し、広く周知し、各教職員に広めていきたいと考えております。」

### 3 学校保健及び学校安全文部科学大臣表彰について

○保健体育課長「この表彰は、学校保健及び学校安全の普及と向上に尽力し、多大の成果をあげた個人、学校及び団体に対し、文部科学大臣から表彰されるものです。県内の選考については、6月5日に学校保健及び学校安全関係者による審査会を開催し、厳正に審査した結果、文部科学省に推薦いたしました。本県の実績者及び受賞学校は、学校保健関係の部では、奈良県立西の京高等学校の学校医北村栄一先生、御所市立秋津小学校の学校歯科医米田撮影先生です。学校安全関係は五條市立五條中学校が受賞されることとなります。表彰式は、平成26年11月6日（木）石川県金沢市で開催される『第64回全国学校保健研究大会』において実施されます。」

○花山院委員長「報告いただいたこれらの内容について、ご意見、ご質問はございませんか。」

○森本委員「定例県議会で、過疎地域における複式学級等について県教委としてどのような取り組みをしているのかというご質問がありましたが、予算要求であった、テレビ会議システムの構築というのは今はどうなっていますか。」

○教育研究所副所長「今年度、へき地の小学校3校を指定し、合同学習、協働学習を行っております。2学期から実際に授業をし、来年度に向けては、更に他の小学校に広げる計画を練っております。今年度は小学校が中心でしたので、まだ計画段階ではありますが、来年度は中学校で専門性の高い先生の授業の配信や研究所の方から授業を配信するというような、遠隔授業という方向で事業を拡大していきたいです。」

○森本委員「ハード面での整備は終わっているということですね。成果はありますか。」

○教育研究所副所長「具体的に成果があがったかというのは数字では捉えきれませんが、アンケートやインタビューで、他の学校の生徒が入って人数が増えた状況で説明するのでコミュニケーション力や理解してもらおうための説明力、また、画面に示すプレゼンテーション力、もっと説明したいという表現力につながる意欲が上がったと聞いております。」

○森本委員「奈良県の南部は過疎が多いので、良い方法を続けて下さい。」

○教育長「整備費用はいくらですか。」

○安井副所長「学校へは1校58万円くらいです。」

○教育長「県で整備すれば進むのでしょうか。ICTの活用について、教育研究所でしっかり調査研究していきます。」

○花山院委員長「へき地でICTの活用が進めば外国の学校と交流することもできますね。」

## 議案及び議事内容

○教育研究所副所長「来年度はそういったことも視野にいれていきたいです。汎用性のあるものにしていきたいです。」

○教育長「今教育研究所でやっているイントラネットを国の補助を使って広げられれば効果的だと思います。ただ、それはあくまでも結んだ学校だけなので、外国の学校とインターネットで交流するというのもよいですね。」

○森本委員「外国の学校とインターネットで交流できるかどうかは、先生の力量ですね。」

○教育研究所副所長「先生の研修環境の整備も教育研究所でしていきたいです。」

○花山院委員長「優秀教職員表彰について、推薦された人を全て表彰するということはないのですか。」

○教職員課長「模範になるという抜きん出た部分が必要なので、毎年推薦いただいた内の何件かは残念な結果になっています。」

○花山院委員長「他にご意見ご質問はありませんか。」

※ 各委員了承

○花山院委員長「これらのその他報告事項については了承いたします。」

○花山院委員長「本日の議案は全て終了いたしました。この他に報告、連絡事項等はありませんか。」

○花山院委員長「それではこれもちまして、本日の委員会を終了します。」